

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

リハビリテーションが未介入である心不全患者への当院の取り組み

2. 研究の対象患者

旭中央病院に2020年4月1日～2021年10月31日の期間に入院中の患者さんで、以下の選択基準をすべて満たす患者さん

- ・ 選択基準
 - 1) 当院循環器病棟に入院中である
 - 2) 年齢・性別不問
- ・ 除外基準
なし

3. 研究の対象期間

2020年4月1日～2021年10月31日

4. 研究の概要

超高齢社会が加速するなかで、高齢心不全患者が増加することで心不全パンデミックが問題視されている。後藤は、近年の我が国の循環器疾患診療現場において、①急性心筋梗塞や急性心不全の急性期院内死亡率の大幅な低下、②慢性心不全・心房細動・糖尿病・慢性腎不全・認知症など多重慢性併存症保有患者の増加、③超高齢フレイル合併心不全患者の増加と安静生活による廃用症候群・要介護化の進行、④退院後の管理不十分による再入院の増加、⑤増大し続ける国民の医療費などの問題を挙げており、今後は運動介入・栄養介入・退院後疾病管理により、発症予防、フレイル・要介護化・寝たきり予防、再入院予防を目指すべきと報告している。

慢性心不全に対する運動療法は、運動耐容能改善だけでなく、QOL向上、再入院防止効果を有し、日米欧の慢性心不全治療ガイドラインにおいてクラスⅠとして推奨されている。

これらの効果のある心臓リハビリテーション(以下、リハビリ)の実施状況として、本邦において虚血性心疾患を対象に外来リハビリへの参加率を調査した結果、3.8 - 7.6%との報告がある。一方で、心不全を対象として調査した報告は極めて少ない。そこで、当院における心不全患者へのリハビリ実施状況と心不全患者の特徴について調査を行った。その結果、調査した期間における入院中の心不全患者82例中、リハビリが未介入である患者は12%であり、理学療法の介入が必要と思われる患者が含まれていた。

上記の背景を踏まえて、循環器内科病棟で週に1回行っている退院支援カンファレンスにて、リハビリが未介入である患者を拾い上げる取り組みを2020年10月から行った。循環器病棟に入院しリハビリが未介入である患者において、リハビリ介入が必要と思われる患者のリストをリハビリ科で作成・提示し、看護師から担当医へ報告していただくことを行った。そこで本研究では、上記の取り組みを実施した効果を検証することを目的とした。

5. 研究実施予定期間

2021年11月17日～2023年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

[研究対象者背景]: 診断名、性別、年齢、身長、体重、既往歴、合併症、入院日、理学療法処方有無、介護度、介護サービス、転帰、再入院の有無、再入院までの期間

[血液検査] : CRP、Hb、ALB、TP、LDL-C、HDL-C、T-CHO、TG、BUN、Cre、eGFR、GOT、GPT、LDH、CK、HbA1c、BNP

心臓超音波検査、心電図検査

その他、電子カルテから得られるその他データ

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究結果は研究対象者(又は代諾者)個々には開示しない。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者 : リハビリテーション科 吉田世里

・ 臨床研究支援センター

電話 : 0479-63-8111(代)